

## 想定される「こども・子育て」機能

No.	機能	現状と課題
1	児童センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設が古く、狭いことから、年齢に応じた遊び、場所の提供が困難である。</li> <li>・市内 8 児童館を指導・牽引する中央児童館として、施設の改修も含め、機能強化を図る必要がある。</li> <li>・学習の場など、中高生の利用ニーズに応えることが出来ない。</li> </ul>
2	中央子育て支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専用面積が狭く、利用者との個別相談、授乳室などの確保が困難となっている。また、駐車場も他施設との共有のため、不足している。</li> <li>・妊娠期から子育て期までの切れ目無い支援を行う「子育て世代包括支援センター」の設置が努力義務とされているため、利用者支援事業の開始と合わせて、機能の強化を図る必要がある。</li> </ul>
3	保健センター (母子保健)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診等の行事实施時はスペースの関係で、プライバシーに配慮した相談場所の確保に苦慮している。</li> <li>・小児用のトイレが無く、利用者に配慮した設備になっていない。</li> <li>・利用者支援事業を母子保健型で行うには、スペースに余裕がない。</li> </ul>
4	青年の家	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震診断結果に問題は無いが、築 50 年を経過し、専用の学習の場や、トイレの洋式化など、設備の更新についての利用者ニーズが高い。</li> <li>・利用者の多くが高齢者の生涯学習団体となるなど、青年層(16 歳～39 歳)の利用低下が課題である。</li> </ul>
5	少年センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市センター内にあり、ピーチライナー高架撤去に伴い、移転する必要がある。</li> </ul>
6	放課後児童クラブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児童数の増加により、特に名鉄沿線の学校では、施設の容量を超える児童数を受入れており、施設の狭さが問題となっている。</li> <li>・平成 31 年度末までに、市条例の基準である「児童 1 人当たり 1.65㎡」を確保する必要があるため、対策が急務となっている。</li> <li>・勤務時間が午後から夕方と変則であるため、支援員の確保が難しい。</li> </ul>
7	小規模保育事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年 2 月に策定した「小牧市待機児童解消実行プラン」に基づいて、小規模保育事業の推進に取り組んでいる。</li> <li>・平成 28 年 4 月現在で、市内 9 ヶ所で保育を行っている。</li> <li>・0～2 歳の保育ニーズは、中部地区において特に高い。</li> </ul>
8	一時預かり事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立幼稚園では在園児を対象に教育時間を延長し、一時預かりを、各保育園では一時的に保育が必要となった子どもに対して、その理由に応じて一時保育を実施している。</li> <li>・託児ニーズは高く、一時保育に対応する施設を増やしている。</li> </ul>